

## 「校長面接」～学びの時間～

校長 館岡 靖哲

「霜が降りるほど寒い時期となりました」「日増しに寒くなってまいりました」「冬の寒気が身にしみる頃となりました」この3つの時候の挨拶は、過去に作成した学校だより12月号に用いたものです。しかし、今年度はこの学校だよりを作成し始めた時(11月中旬)の最高気温が約23℃で汗ばむ陽気、その3日後は40年ぶりの寒さ。時候の挨拶を考えるのも一苦労です。

11月も生徒の活躍が目立ちました。新人体育大会では、埼玉県大会に出場した女子バスケットボール部が県3位、女子バレーボール部も県ベスト16の成績を残しました。また、吹奏楽部のアンサンブルコンテストや読書感想文の埼玉県入賞等、表彰する生徒が非常に多く、2日間に分けて表彰式を実施しました。さらに生徒会を中心に、南米アルゼンチンの首都ブエノスアイレスの日本人学校とのオンラインでの交流にチャレンジしました。日本から見て地球の裏側の国について、人々の暮らしや様々な文化を学ぶ機会となりました。

さて、今年度も3年生を対象とした、1人約15分から20分程度の校長面接を実施しています。本校は生徒数が多いため、学校地域連携コーディネーターの石橋先生(元小学校長)の協力を得ての実施です。最初は緊張していた生徒も、面接の雰囲気慣れてくると徐々に会話が弾んできます。私は面接の終盤に、「最近のニュースや出来事で、関心のあることを教えてください」という趣旨の質問をしています。回答として多いのがスポーツの話題、そしてアメリカの大統領選挙です。しかし、生徒の中には「気候変動(特に地球温暖化)」と回答する生徒も複数います。これは、校長面談と同時期に開催されていた気候変動対策を話し合う国連の会議、COP29に係るニュースを見聞きした生徒の回答ですが、さすがに感服します。その生徒に、私の中学生時代(約40年前)の気候の話をする、誰もが驚きます。一例を紹介します。

(昔) 夏でも30℃を超えると話題になった → (今) 35℃を超える日が続出している

(昔) 夏でも朝方は涼しく、朝に宿題を済ませた → (今) 朝から30℃を超える

(昔) 夏でも冷房なしに生活ができた → (今) 夏に冷房なしの生活は生命に危険である

ところで、環境省のHPによると、日本の21世紀末の年平均気温は全国的に上昇することが予測されていて、厳しい温暖化対策を取らなかった場合、3.4~5.4℃上昇が予測されます。つまり、夏には40℃を超える日が続出するという事です。そこで、生徒には実際に行っている温暖化対策を聴いてみました。

Q:あなたが実施している(もしくは実施しようとしている)温暖化対策を教えてください。

A1:家族で相談して、入浴はできるだけ時間を空けないようにしています。

A2:使用していない部屋の照明や家電のスイッチをこまめに切るようにしています。

A3:シャワーや水道を出しっぱなしにせず節水を心がけています。

A4:地球温暖化対策として、発展途上国の貧困問題や、乱開発の防止が重要です。将来は国連機関に就職し、発展途上国の支援をしていきたいと考えています。

さすが本校の生徒です。校長面接は、私にとって生徒から学ぶことが多い時間でもあります。